
天空の宣言

全無断転載、引用・転用、盗用禁止！

天空の宣言全文

我々は多くの間違った対立、争い、戦争を繰り返してきた。
未だに人は一つになることができず、他者との性別・人種・職業・学業・出身地・国など些細な違いから、人々に対立、争いをもたらし、さらに格差、不満、いがみ合いから、多くの混乱を呼び、苦しめている。

我々は、どこで道を踏み誤ったのだろうか—

他者より強く、他者より上へ。
上がることばかり考え、何もしない。

欲しい物を手にするために、他人の物を奪う。
無意味な競いをして一番ならうとする。

何かをしても、何も得られないことに気付かず、自分勝手な行動ばかりをして、能力、力を弄び、自分にできる役割を放棄して、他者の幸福を壊す者が人類には存在している。

人は皆、平等ではない。
性別・人種・職業・学業・出身地、役割など、人それぞれ違う。
特技、能力でも個人差がある。
しかし、人の些細な違い、価値観の違いを認めず、対立をもたらす、身勝手な行動をして自分にできる役割を放棄して、他者の幸福を壊す者が人類には存在している。

何を得ても、何かを求めても、何も得られず、何も満たされない。

求めた場所。求めた物には、全てがあり、恐らくは何もない。

ただ、あるのは、
意味の無い競い、身勝手な行動による対立、争い、破壊されていく幸福。
不平等によって起きる対立、争い、破壊されていく幸福。
失われていく、対話。平和。
失われていく、守り合う仕組みと力だけ。

我々に、他者の幸福を壊す者を、終わらせる術がない。

だから、人は、今一度、人の権利、価値を見つめ直し、人が得るべき、進むべき、平和の全く新しい“答え”を示さなければならない。

天空の宣言において、今一度見つめ直す。

人の権利。平和権、環境権。

平和権。一人ひとりが持つ自分の役割を果たして幸福になれる権利。個人が役割を果たすことで苦難があるときや平和、幸福を守り合える権利。

人は、誰もが役割を果たす権利を有する。

人は、誰もが役割を果たすことで幸福になれる権利を有する。

環境権。人類が、誰でも良好な環境を保全することと、享受しうる権利。

人の基本的価値。

自由。

自由は自分勝手な行動を取るのではない。責任のある行動である。人は幸福を受けられない、役割を果たせない犠牲を受けることなく、役割を果たして、責任のある行動を取る。

連帯、分担。

人はそれぞれが役割を分担して、適切な役割を果たす。役割を果たす者が損をして役割を果たさない者が得をする仕組みを排除し、さらに、役割を果たす者は、幸福の恩恵を共有、受ける。

ただし、職業や住まう場所、役割を果たすことを通じて、己の欲望を満たしてはならない。他者の自由、幸福、人の権利を侵害する恐れがあるからである。

役割は、人が果たすべき責任。存在するために、果たすべき責任である。

天空の宣言において、人類のあり方を示し、定める。

「全ての人類は、他者の幸福を妨げない限り、己の役割を果たすべきである」

- ・ 如何なる個人、組織、国家であろうとも、幸福を独占し、人の権利、基本的価値を侵害してはならない。
- ・ 人は、誰もが役割を果たすことで幸福になり、役割を果たさなければならない。
- ・ 人は、職業、性別、人種において、差別されない。
- ・ 人は、幸福や利益を独占するべきではない。
- ・ 人は、役割、立場を利用して他者の幸福を奪い、欲望を満たしてはならない。人の権利、基本的価値を侵害してはならない。
- ・ 人は、職業や住まう場所、役割を果たすことを通じて、己の欲望を満たしてはならない。
- ・ 人は、資格がある、ないで判断、差別されない。

平和とは、一人ひとりが自分勝手な行動はやめ、自分の役割を果たして形作られるものである。そして幸福を受け合う、平和を守り合うことができる。

国とは、人の集まりであり、場所では決まらない。平和と同じく、人がそれぞれ自分自身の役割を果たし合い、形作られるものである。

だから全ての人類は、他者の幸福と人の権利と基本的価値を侵害しない限り、役割を果たし幸福になり、平和を守り合わなければならない。

天空の宣言は、平和の原点となり、人の間違いを改め、人類を教育する基盤となろう。そして、平和を守る者たちが迷ったときのよりどころとなるだろう。

天空の宣言に賛同し、賛同する人たちが集まってくれることを切に願う。

2009年12月20日

ここに、天空の宣言を発表する。

地球連合樹立者

塩田賢寿